

実践哲学研究

第 36 号

Der Hintergrund von Husserls Begriff
der Kundgebung und Kundnehmung鈴木 崇志 (1)

非認知主義の本性と意義鈴木 真 (31)

《研究報告》徳倫理の最前線 (1)

ロザリンド・ハーストハウスの徳倫理学..... 林 誓雄 (73)

現代徳倫理学における

自然主義と徳の規準 佐藤 岳詩 (153)

フィリッパ・フットの

自然主義・徳理論・Why Be Moral? 問題 杉本 俊介 (181)

彙 報 (209)

京都倫理学会

2013

实践哲学研究

第 36 号

《研究報告》

徳倫理学の最前線（1）

本研究報告は、京都大学倫理学研究室在籍の大学院生、並びに当研究室に過去在籍した若手の研究者を中心として2012年初春より定期的に行なってきた「徳倫理学研究会」での成果を土台にしています。これまで当研究会では、近年本国においても急速に注目を集めつつある現代徳倫理学の諸理論について、その代表的な著作の読解を通じて議論と検討を重ねてきました。本研究報告では、フィリッパ・フット、ロザリンド・ハーストハウスを中心に現代徳倫理学諸理論の概観、検討を行ないます。なお、本研究報告全体の企画趣旨に関しましては、林誓雄によるハーストハウス紹介原稿の「はじめに」をご参照いただければと思います。

このたびの報告は現代徳倫理学という広範な研究領域のうちの氷山の一角に過ぎず、しかも、まだまだ基礎文献の収集と読解という段階にとどまっており、研究不足の感は否めません。とはいえ、現代徳倫理学をめぐる現在の研究状況にあって、とりわけ国内ではその紹介、検討が十分になされていないという現状に鑑み、ここに当面の成果を発表する次第です。本報告が今後の議論の活性化に、いくらかでも貢献できれば幸いです。

なお、本報告執筆にあたっては、当研究会にも参加くださっていた安井絢子氏（京都大学大学院 文学研究科）から、有益なコメントをいただきました。ここに記して、謝意に代えさせていただきます。

趣旨

われわれの社会が直面している現今の状況は、倫理学の重要性を日増しに痛感させるものである。しかしながら、ひとくちに倫理学といってもその対象は多岐にわたる。諸分野の共同なしには研究の進展はない。それゆえ、われわれ京都大学倫理学研究室大学院生は、みずからの研究を公にすることによって、広く諸姉兄の批判と判断を仰ぎ、各自の問題意識を深めると同時に相互の交流を図るべく、ここに『実践哲学研究』を発行する。

後記

1. 本年もここに第36号をお届けすることができました。これもひとえに皆様の貴重なご意見と暖かいご援助の賜物と感謝致しております。今後ともよろしくご指導のほどお願い申し上げます。
2. 当会では賛助会員制度を設け、会誌の読者の皆様にご支援をお願いしております。例年多数の方々のご協力をいただき、誠にありがとうございます。当会では会誌の充実になお一層の努力を致す所存でございますので、今後とも何卒ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

編集委員

安彦 一恵 (滋賀大学教育学部名誉教授)
北尾 宏之 (立命館大学文学部教授)
本田 裕志 (龍谷大学文学部教授)
水谷 雅彦 (京都大学文学研究科教授)
児玉 聡 (京都大学文学研究科准教授)

発行 京都倫理学会

〒606-8501 京都市左京区吉田本町
京都大学文学部倫理学研究室内
郵便振替 01020-1-27560

発行日 2013年10月31日
定価 1050円(本体1000円)

事務局

京都大学大学院文学研究科思想文化学系
倫理学専修大学院学生共同研究室

代表

水谷 雅彦

**STUDIES
FOR
PRACTICAL PHILOSOPHY
(JISSENTETSUGAKU KENKYU)**

No. 36 November 2013

CONTENTS

Der Hintergrund von Husserls Begriff der Kundgebung und Kundnehmung	SUZUKI Takashi (1)
The Nature and Significance of Noncognitivism	SUZUKI Makoto (31)
The Front Line of Virtue Ethics	
Rosalind Hursthouse's Virtue Ethics	HAYASHI Seiyu (73)
Naturalistic Virtue Ethics and the Standard of Virtue	SATO Takeshi (153)
Philippa Foot on Naturalism, Virtue Theory and the Problem "Why Be Moral?"	SUGIMOTO Shunsuke (181)
Notes	(209)

KYOTO SOCIETY FOR ETHICS
(KYOTO RINRIGAKKAI)
KYOTO JAPAN